

審議会等の会議結果報告書

【担当課】文化財課（八ヶ岳総合博物館）

会議の名取委員委 員 称	博物館協議会 専門部会		
開 催 日 時	平成 25 年 3 月 15 日（金） 午後 6 時 00 分～午後 7 時 00 分		
開 催 場 所	八ヶ岳総合博物館 研究室		
出 席 者	沖野部会長 北沢副部会長 石森委員 岡本委員 小池委員 茅野委員 名取委員 花里委員 浜委員 両角委員 鶉飼文化財課長 若宮八ヶ岳総合博物館長 大谷係長博物館係長 柳川博物館係主査		
欠 席 者			
公開・非公開の別	(公開)・非公開	傍 聴 者 の 数	0 人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容（概要）		
沖野委員	<p>1 開会（博物館係長）</p> <p>2 協議 （資料説明）</p> <p>理科の実験室で物理的な面、実験室で基本的な実験器具は揃っているようであるが、重複を避けた方がいいのかどうか、それはこれから実際具体的に計画を立てるときに入れていければよいのかということで、「など」としてある。4 頁目の前書きは別として、5 頁から 7 頁まで、今後の検討課題で、その前までに気づいた点はないか。</p> <p>できるだけ、昨年報告と被らないようにと言うか、内容的にはいいが、文章的には被らない方がいいと思う。</p>		
北沢委員	<p>5 頁の用語の使い方についてだが、下から 4 行目は「学習指導要領との連携」では「関連」の方がいいのではないか。</p>		
沖野委員 茅野委員 沖野委員 茅野委員	<p>1 の「常設展示の更新」に関係することについては何か意見はないか。この前にある「水文」とは何か。</p> <p>地下水とか、漂流水もそうだが、水の流れに関連して、大きく言うと、水棲昆虫なども含めてだ。細かくすると多岐にわたるので、総合的に「水文」というようにしてしまっただが、水に関わることだ。陸水でも構わないのだが。</p> <p>みんなにわかるような言葉の方がいいのではないか。その前の南アルプス前衛というのが、西山のことを言っているのだと思うが。</p>		
沖野委員 名取委員 沖野委員	<p>釜無から入笠山にかけては何と言ったらいいのだろうか。</p> <p>守屋山系とも言うが。</p> <p>具体的には釜無・入笠山系と言ってしまうと、地元の人にはわかりやすいか。</p>		
小池委員 花里委員	<p>守屋山系の方がいいのではないか。</p> <p>6 頁目下から 3 行目の右の方だが、「育成・支援」とあるが、言葉としてどうか。「育成」だけでいいのではないか。</p>		

沖野委員	「育成」だと上から育てる意味合いがあるので、自分で成長している人は「支援」だということか。
北沢委員	活動と言う言葉があれば、「支援し」でもいいと思う。
沖野委員	「市民を育成し、活動を支援し」ならいいのではないか。
濱委員	6頁の学校教育の連携のところだが、「先生方の研修の場にもしたい」という意味のことを入れて欲しい。ただ、連携ということだけではなくて、少し具体化した方がいいのではないか。諏訪教育会へ行ったら、理科を研究していた元校長先生がいて、今の先生は、大学時代に理科の自然そのものよりは理科の実験の指導法みたいなことは学んでくるが、自然そのものの学習は、今はあまり学んでこない。自然などはビデオでその単元を終わらせてしまう、と言っていた。
沖野委員	学校教育との連携のところに、教員の研修という中味を出せばよろしいか。
濱委員	そうだ。ちょっと追加して貰いたい。
沖野委員	科学教育センターの面積はとりあえずどのくらいというのを入れてみたが、具体的になりすぎても、後で縛りになっていけなく、2階建てになると廊下と便所が増える、実質的に難しいので、平屋の方が効率的ではないか。1,000㎡だと4億円くらい、2,000㎡だと8億円くらいになるか。機器類は1,000万から2,000万くらいの間というのが具体的にあるが、中間報告なのであまり金額は入れない方がいいのか。大きいと言えば大きい、それほど大きくはないか。
	7頁の4番の「出来るところから始める」の中の項目は、今できそうなことを思いついたまま書いたものだ。特に、最後のタブレット型展示法の研究は早くやったほうがよい。市の方でも何かやっているようだが、それを拡大していけばよいということで入れておいた。日進月歩なので、あまり固定した物を入れるとすぐに陳腐化してしまう。入れ方の問題だと思う。いずれにしても、大いにそのような道具を使えば色々なことができると思う。
茅野委員	非常に具体的に器具など入れてくださったが、実際は総合博物館には何もない。子供科学クラブができてからやっと少しずつ器具がそろってきた。先程、学校にあればよいということだったが、ここになれば何もできない。
花里委員	電子顕微鏡は。
沖野委員	電子顕微鏡は信州大学にあるからいいか。
花里委員	今は500万くらいだ。扱い方も簡単になってきている。
茅野委員	大きい物は途中で購入するのはほぼ無理である。
沖野委員	場所を取るので場所を決めてしまわなければならない。物理で基礎的な道具ではどのような物が必要か。
岡本委員	理科振興法というのがあって、一応各分野に関わる備品というのは、定められている。北部中学校を見学したときに、ある程度は充足しているとは思った。実は充足率は学校によってまちまちである。「出来ることから始める」の3つめに学校担当者会議等があるので、このような中で一度検討していくような形にしていだけたら必要なものがわかると思う。
沖野委員	化学実験室だけではなく、物理実験室も増える可能性があるのか。

花里委員	今回、ロシアで隕石が墜ちたが、そのようなことがあったら、興味を持つので、そのようなこともできたらと思う。
北沢委員	博物館で、物理・化学の実験をすることになると、どういうことを考えるかによって、異なってくるので、野外とつながっていくような学習・実験できる、とそういう意味で物理・化学というものを、学校での物理・化学と言うことではなくて、そういう意味での物理・化学の分野・内容で、自立した方がいいのではないか。 学校の備品も変わってきているので、指導要領が変わる度に変わるし、そのような事があるので、学校の方は学校の方でやってもらうけれど、博物館は野外とつながっていけるようなものを考えていくべきだ。
沖野委員	部屋を用意しておけばそれで、できてから追加していけばいいのではないか。参加する先生が企画してやればいい。基本的には八ヶ岳の自然を生かしたものに繋げる実験という。
名取委員	一番最後の方で「職員の確保と財政的な裏付け」と言うことで重きを置いているが、人的な組織の面で最後の記述と7頁の下から2行目の「市民研究員制度の具体化」というのは市民を巻き込んでということだが、研究員とか学芸員とか具体的に博物館に関わる人的な物は、話し合いの中でいろいろな面が出てきたが、もう少し具体的に学芸員・研究員として入れた方がいいのではないか。 「委員」というように「協議会」的な面も出ているが、具体的に人的な面で骨となってやっていくという具体的なものを書いた方がいいのではないか。
沖野委員	8頁目に「これからの検討課題」ということで、あまり具体的に記載していないが、「学芸員の充実」というのは当然なことだが、もう少し入れておいた方がいいかもしれない。
名取委員	7頁の「市民研究員制度」というのは、それにつながる人だということだが、最終的には学芸員・研究員ということ、主体的にできる方が増えれば色々な面の活動ができるのではないか。
沖野委員	7頁目には「専門学芸員の充実と市民学芸員の具体化」というものを入れておいたらどうか。 8頁目には「核になる博物館の職員である学芸員・研究員の充実」みたいなものを入れた方が良いか。
北沢委員	そうだ。8頁にそういうものを入れた方がよい。抽象的な書き方なので、踏み込んだ方がいいだろう。
沖野委員	今のは7頁の「市民研究員制度の具体化」の中に「学芸員の充実と市民研究員制度の具体化」ということにして、8頁の方にはこの文章の中に「博物館活動の核になる学芸員または研究員」について記述する。
北沢委員	「天文教育施設の一元化」で「中学校等」と、あえて学校名を伏せてあるわけか。
大谷係長 小池委員	特にそこまで考えていたわけではない。一番大きな物は北部中学校だが、北部中学校の天文台を総合博物館へ持ってくるのが含まれているのか。
大谷係長 小池委員	前回の答申の時には、そのような話があった。 教育センターができることになれば、その一部に移設できれば。

沖野委員	それは学校の了解がなければ難しいのではないかと。細かいものは手元に設備としてあった方がいいが。
北沢委員	「一元化」というものがどういうものを指すのかと思う。ちょっとイメージが湧かない。「一元化」の内容がわかればなおいいと思う。
沖野委員	この辺のところの内容も検討したい。
石森委員	6・7 頁くらいのところで「研究員」とか、「学芸員」とか、色々な言葉が出てくるが、6 頁で企画運営会議で学芸員というのが出てくるが、「専門委員」とか、一体どういうプレイヤーがいるのか、役割は何かということを確認にした方がいいと思う。
沖野委員	初め「市民学芸員」ということで討論してきたが、尖石縄文考古館の方で「学芸員」があるので、館長との話で「市民研究員」という名前にした方がいいかなということになった。ここにある学芸員は、すでにある「学芸員」、職員のことだ。
石森委員	7 頁の「必要な諸室」などで「他」となっているが、「ほか」となっているのと何が違うのか。
沖野委員	ここに書いてある上の方は「研修室」といっても色々な研修室があるということで、総合博物館にあるあらゆる研修室ということだ。
沖野委員	この段階で必要な施設・器具というものは、入れなくてもいいと思うが、入れた方が、皆さん費用のことを気にしているようなのでいいのかと思う。
北沢委員	ここに書かれている必要な諸室と関連した廊下だとかを入れていくと、どのくらいになるのか。
沖野委員	私の方の 1,000 m ² というのは、頭には花里委員先生のいるところのワンフロアが実験室で、それが 1,000 m ² 弱なので、この位の規模があれば、色々な物が入ると考えたからだ。
若宮係長	できれば、5 番の「課題と今後の検討」の中の 2 番目に「具体的な事業内容と展開計画」があるので、この具体的な事業内容と展開計画がある程度見えてくると、それに必要な部屋というのが出てくると思うので、今大雑把に 1,000 m ² とか 2,000 m ² という数字が出ているが、実際にはこの具体的な事業内容と、どのように動かしていくか、例えば、学校が 1 校来て、1 日いた場合、どのような動きをするかだとか、何が提供できるかだとか、そのような具体的なことがでてくると、このような部屋が必要だとか、色々器財なども具体的に出てくるのではないかと思うので、できるならば、大雑把なところで示してもらいたい。小さく出しておいて、増やしていくということはなかなか難しいので、削っていくようにしたい。
沖野委員	具体的な事業計画の展開に合わせて施設の規模・内容は決めていった方がいいかもしれない。
濱委員	5 頁の 6 行目の岳麓文芸館について、現状のままで行くのか、文芸館としてより望ましい場所に移動し、プラネタリウムにするとか、展示も天体関係だとか、環境問題にかんする物にして、文芸と関連する展示と言うことではなくて、よりよい場所があれば、文芸館を移動するようなニュアンスを持った表現にした方がいいのではないかと。
沖野委員	前回か前々回の議論の中に市民の中から総合博物館と言っているのに、どうして「科学」だけにするのかという意見もあったという話もあり、やはり「総合」だから風土的な物も含めると、その文化的な物も文芸的な物

	<p>も、中に含めて考えているということをおいておいた方が誤解が無くていいのだろうということがあったので、このような表現になっている。岳麓文芸館は特殊なところがあるので、別個に展示するところがあれば移動することも考えられる。</p> <p>市民から見ると、科学に特化した物を作るのか、科学博物館かということになると、これから後の実現化の時に障害になる可能性があるかと思っただので。</p> <p>博物館の今後の課題 8 頁の方に「博物館施設の空間構成の方も考えていかなければならない」ということで、岳麓文芸館が敷地内にあるにしても、別個に作れるようにすれば、いいと思うが、中で解決するとは書いていない。</p>
濱委員	8 頁のところには、「やがて独立館を目指す」とあるが。
沖野委員	企画検討委員会でスケジュールができてくると、その問題はそこで考えるということであれば、理解してくれると思う。
小池委員	当初から「科学館」「科学センター」というのは、全部それにするのかと聞かれるが、「総合博物館」という名前を残すのであれば、やはり文芸館も大事にしないといけない。島木赤彦が小泉山や柳川の自然の中で育ったということであれば、大事に文芸館を考えなければならぬと思う。文芸館を出すにしても、一面に設置するべきだ。自然が豊かなところに縄文文化や寒天などの産業について、みんな自然環境において育ってきたというつながりがある。当初に総合博物館と銘打ったのは、そこを大事に考えていたからではないか。
両角委員	資料の表だが、「博物館連絡協議会」ではなくて、「博物館協議会」と訂正して欲しい。
若宮館長	中間報告でいただいているとおおり、できるところから始めると言うことで、新年度からできることからということで、市民研究員講座を開講することにした。それには、ここにいらっしゃる両角先生・花里委員先生・沖野先生・名取委員先生、石森先生・諏訪東京理科大の学長から、実験の出来る木村先生を推薦していただき、開講することになった。きのこの方では菌類懇話会で事務局をしている小山先生にお願いした。木村先生には専門員として入っていただいて、専門委員を中心として、できれば専門委員に学校の先生を加えて企画・運営会議を発足したいということで、現在準備をしている。
沖野委員	これは募集を始めているのか。
若宮館長	明日から受付である。
沖野委員	現実に実績が重なっていけば、中味が見えてくる。できるところから始めるのがいいと思う。また、先生方にもご協力をいただければと思う。
花里委員	小学校の先生で理科の苦手な先生に、積極的にインカレッジしていただけたらと思う。
沖野委員	先生方を特に対象とした講座も必要だと思う。
若宮館長	先生方に市民学芸員に参加してもらえればいいのだが、私の経験から、現役の先生はなかなか参加できない。企画運営会議に学校の先生も参加していただくと同時に、学校との連携もできるところからということなので、途絶えてしまっている博物館部会をなんとか復活させていきたいと考えて

若宮館長

いる。学校の先生と企画運営会議に入っていただく先生をつないで、企画運営会議に色々あげられる体制の中で、学校教員にどういう研修というか、何かをやっていったらいいのだろうか、という学校の先生のニーズをとらえてできるといいなと考えている。来年すぐにといいわけにはいかないが、徐々に進めていきたいと思う。

石森委員が諏訪東京理科大学を退官されたので、今日で、出席は最後です。